

第58回関西広域連合委員会

日時：平成27年7月4日（土）

午前11時00分～午前11時59分

場所：大阪府立国際会議場 3階 イベントホールD

開会 午前11時00分

○広域連合長（井戸敏三） それでは、お待たせしました。第58回関西広域連合委員会を始めさせていただきます。

議事に入ります前に、報告がございます。

昨日、サミットの閣僚会合の開催について発表がありましたが、京都は残念なことになりましたけれども、神戸で保健大臣会合が開催されることになりました。広域連合としても神戸でのサミット開催、そして京都市での外務大臣会合誘致への後押しというのをやってきたわけでありますが、結果として保健大臣会合が神戸でということになりました。この会合につきましても、引き続き、連合としてもしっかり支援していきたい、このように考えておりますので、よろしくご理解をいただきたいと思えます。

特にこれに関連して、神戸市さん、ご発言ありますか。

○副委員（鳥居 聡） 一言お礼を述べさせていただきますと思います。

2016年に開催されますサミットの誘致につきましては、関西広域連合の皆様におかれまして、昨年に決議をいただきました。そのほか、国の予算編成等に対する提案にも上げていただきまして、多大なるご支援を賜りまして本当にありがとうございました。残念ながらサミットということにはなりませんでしたが、保健大臣会合というご指名をいただきまして、大変光栄に思っております。

今年は震災20年という一つの区切りの年になりまして、そういう意味でもふさわしいことかなと思っております。引き続き、ご支援、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○広域連合長（井戸敏三） 京都市さん、何かございます。

○副委員（藤田裕之） 神戸市におかれましては、保健大臣会合の誘致が決定されたことをお祝い申し上げたいと思います。

本市も手を挙げておりましたけども、それはそれとしまして、この首脳会議が関西全体の発展につながりますように、私どもも一緒に応援してまいりたいと思っております。頑張ってくださいと思います。

○広域連合長（井戸敏三） 2008年の洞爺湖サミットのときは、神戸でやはり環境大臣会合をやりました。そのときの環境大臣会合、鴨下さんが環境大臣でしたが、京都枠組みが先進国だけの枠組みだったのを、新興国も入れた世界全体の枠組みにしていこうというきっかけになった環境大臣会合でしたから、そういう意味では、今度、保健大臣も、MERSは落ちついているでしょうけれども、感染症対策とか、世界的な広がりを持つ対応が必要になってきているのと、どこまで話題を広げるのかというのはあるのかもしれませんが、WHOの神戸センターが立地してますし、そういう意味では、それから医療産業都市の推進ということもありますので、神戸で開催されるのはそれなりの意義づけがあるのではないかと思いますので、どうぞよろしく願い申し上げたいと思います。

それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

まず最初に、MERSに関しての対応につきまして、広域医療担当の飯泉委員のほうからご報告いただきます。

○委員（飯泉嘉門） 今も少し連合長からお話がありましたが、この韓国におけるMERSの感染について、新たな感染者、拡大傾向はないという形になるとともに、自宅での隔離対象者数も減少しているというところではあります。日本と韓国との間、往来する人が、今、年間約500万人ということがありますので、今後、国内においても感染者、これから発生する可能性があるということでもあります。

国におきましては、今、国際空港などの検疫所、いわゆる水際対策ということで行

っているところではありますが、地方自治体関係におきましても、MERS疑いの患者が発生した場合の患者の搬送、また入院措置、また検体の検査など、迅速かつ的確に行っていく必要があるということで、これによって何としてもMERSの感染を防ぎたいと、このように考えております。

このため、7月2日ではありますが、構成団体及び連携県のMERS対策担当者会議、これを広域防災局と合同で開催をさせていただいたところでもあります。

当日は厚生労働省の関西空港検疫所の職員の皆さんにも参画をいただきまして、関空における検疫体制、その説明を受けるとともに、検疫所での疑い患者が発生した場合の患者搬送に係ります構成団体及び連携県での連携方法についての確認をしっかりと行わせていただいたところでもあります。

また、構成団体及び連携県におけるMERS対策の取組状況についても、情報の共有、これをしっかりと図らせていただきまして、今後もどのような連携が可能となるのか、また具体的な方策を協議し、引き続き、広域医療局が中心となりまして、構成団体及び連携県との連携を密にした情報の共有のその仕組みづくりをしっかりと取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

以上です。

○広域連合長（井戸敏三） 今のご報告に対しまして、特にご質疑等ございましたらお願いします。

うちの県ですと、加古川医療センターなんですが、各県それぞれセンターをお持ちになってるんですね、感染症の。

○委員（飯泉嘉門） それと、あと各保健所です。まずは、保健所に行って対応ということを医療機関にも通知といいますか、させていただいてますが。

○広域連合長（井戸敏三） 保健所からそのセンターへ行くという。

○委員（飯泉嘉門） そうです。センターに行く。

○広域連合長（井戸敏三） これは強制隔離ができないんでしょ、MERSの場合は、まだ指定されてないから。指定伝染病か何かになっていないから、だから、今現在、監視中の人何人かいるんですか。

○委員（飯泉嘉門） 疑いということですね。

○広域連合長（井戸敏三） 疑い事例の方が。1週間ぐらい経過すればいいということなんですね。

ともあれ、水際作戦できちっと防いでいかないといけない課題ですので、みんなで連携をとりながら推進を図らせていただければと思います。

じゃあ、この件はよろしゅうございますね。

続きまして、また飯泉委員からですが、歓喜の歌プロジェクトについてご紹介ください。

○委員（飯泉嘉門） 今、関西広域連合から全国知事会、そして今では国としてカルチュラル・オリンピアド、これを東京オリンピック・パラリンピックでやっぺいこうと。ただ、リオのオリンピックが終わらないと、なかなかこの文化プログラムの名前が使えない。であれば、提案をした関西広域連合は、1年早く、今年度からやはり連携をして行っぺいこうと、こうしたお話を取り決めさせていただいているところであります。

そこで、徳島からの提案とさせていただきます、実は東京オリンピックまでの2018年、ベートーヴェン第九アジア初演からちょうど100周年を迎えると。今は年末どこでも第九を歌い、聞かなければ年が越せないという状況になっておりまして、本来は6月1日なんです。これは第一次世界大戦のドイツ軍の捕虜の皆さん方が、奇跡の収容所と言われた鳴門の捕虜収容所、ここで人道的な扱いを受けたということで、その感謝の意味を込めて演奏したのがベートーヴェン第九アジア初演、日本初演ということで、ちょうど2018年で100周年ということでありまして、これを、今年度、ちょうど文化プログラムの前哨戦として徳島では2,000人の第九をまず行っぺいこう。

また、この100周年に向けて新しい第九、つまり第九を聞く人に提供するのではなくて、歌う場として使っていただくということで、できれば今後は世界からもと、その意味でまず県内1,000、そして県外から1,000であれば、まずは関西広域連合の皆さん方に集まっていただきたいということで、次のページに詳細を記させていただきますが、実際には1月30日、本県の徳島市内の5,000人収容のアスティ徳島のほうで開催をさせていただきます。

関西広域連合エリアの皆さん方には、経験者の方を募集をまずさせていただきたいと思います。そこで、関西広域連合エリアの皆さん方は、県外の皆さん5,000円の参加費を2,000円とまずさせていただきたいと思いますので、ぜひこぞってご参加をいただきたいな。そしてまずは100周年、さらにはちょうど東京オリンピック・パラリンピックの年にベートーヴェンの生誕250周年、これも迎えると。今ではEUの国歌ともなっているところでありますし、世界平和の象徴の歌と言われておりますので、ぜひ新しい第九のあり方、これを関西広域連合の力、できれば国内、そしてさらには世界へと発信をしていければと。

ちなみに指揮者につきましては、本県のとくしま国民文化祭記念管弦楽団の音楽監督であります秋山和慶先生をお迎えしておりますので、またぜひよろしくお願ひ申し上げたいと存じます。

○広域連合長（井戸敏三） 飯泉委員は出場されるんですか。

○委員（飯泉嘉門） いえ、私は歌のほうではありませんので、場合によってはピアノ伴奏でもやりますけど。

○広域連合長（井戸敏三） 歌は歌わない。

○委員（飯泉嘉門） 全体での指揮監督をさせていただきます。楽団長が私であります。

○広域連合長（井戸敏三） てっきり、練習ピアノぐらい弾いたらいいんじゃないんですか。

○委員（飯泉嘉門） そのあたりは。

○広域連合長（井戸敏三） 練習ピアノぐらい。

○委員（飯泉嘉門） ピアノは。

○広域連合長（井戸敏三） この中で、歌で山田さんは。

○委員（山田啓二） いえいえ。

○広域連合長（井戸敏三） これ、だけどきちっとPRしていかないといけませんね。なかなか、これ、どういう形でPRしていくかな。

○委員（飯泉嘉門） ですから、ぜひ関西広域連合としての文化プログラム、これはみんなでやっていこうということになってますから、そういうところから、まず具体的な点はどんどん、これは一つの例なんですけど、ぜひこうした形で、しかも今回だけの話ではなくて、100周年に上げてこれを盛り上げをしていきたいと考えていますので。

○広域連合長（井戸敏三） これ、締め切りはいつなんですか。9月30日なんですか、募集期間。

○委員（飯泉嘉門） はい。もう6月30日から、今、募集を開始をさせていただいてますので。ぜひ、それぞれの文化担当のところからも。

○広域連合長（井戸敏三） 1万人の第九をやってますよね、年末、大阪城で。あのメンバーがどっと手を挙げてきたら、すぐに埋まっちゃうよね。

○委員（飯泉嘉門） いっぱいになりますね。実は、大阪、兵庫と、かなり第九はやられてるんです、年末。この1万人のあれも堺もやっておられますし、兵庫県もいろんな地でやっていますね。

○広域連合長（井戸敏三） それで、今年は年末の12月31日から1日にかけての芸術文化センターでの年越しはもうやめて、佐渡さんが来れないもんだから、それで12月の初めに第九をやることになってるんですよ。ですから今年は第九がすごく多いんじゃないですかね。

○委員（飯泉嘉門） 実にはアスティに佐渡さんも来られます。観光協会が呼んでます、うちの。

○広域連合長（井戸敏三） それでは、各メンバーの皆さんに、応募についてのご協力をぜひお願いを申し上げたいと存じます。

それから3番目、地方分権改革に関する提案募集の対応についてであります。

関西広域連合としてかなり骨太の提案をしまいましたが、事前打ち合わせ等で大分整理がついてきました。ただ、成果が上がっているかどうかはまた別の問題であります。事務局から説明をさせたいと思います。

どうぞ、事務局。

○事務局 資料3をご覧ください。

前回の連合委員会で決定されました25項目を内閣府に提出いたしました。また、あわせまして、構成府県市が提案する37項目につきましても、共同提案をいたしたところでございます。

国におきましては、地方からの提案に対して、次のような区分をして検討を進めることとしております。

一つ目は、内閣府と関係府省との間で調整を行う提案、二つ目は、関係府省における予算編成過程での検討を求める提案、三つ目は、提案団体から支障事例等が具体的に示された場合等に調整の対象とするものという区分でございます。

関係府省との間で調整を行うもののうち、重点事項、これは下の囲みでございます。メルクマールにより選定されておりますが、この重点項目につきましては、国の有識者会議専門部会で調査、審議されます。

広域連合からの提案25項目についてでございますが、3ページをご覧ください。

関係府省との間で調整が行われるものは17項目で、うち2項目、一番上の土地利用基本計画策定の見直しと、次の介護保険における住所地特例の適用対象の拡大が重点事項となっております。それから予算編成過程での検討を求めるものが2項目、改め

て支障事例等が具体的に示された場合等に調整対象とするものが6項目でございます。

2ページをご覧ください。

今後のスケジュールでございます。今月上旬から、内閣府から関係府省への要請がございまして、あわせて重点事項につきまして内閣府から提案団体へのヒアリングがございまして、8月上旬には府省から第1次回答があり、提案団体に意見照会がなされます。その後、府省への再検討要請など国・地方間で調整が進められていきます。

今後の対応でございますが、所管府省の第1次回答などに対する広域連合からの意見の提出時期が8月上・中旬となっております。連合委員会開催の予定がございませんので、回答案につきましては構成団体、連合長に協議の上、内閣府に提出したいと考えております。

ご説明は以上でございます。

○広域連合長（井戸敏三） 今の分権の動きは、こういう提案文書方式で個別事務についての調整というような形で進んでおりますが、25項目、関西広域連合から提案させていただきました項目が、今、説明しましたような別紙1のような対応になっているものであります。

それから4ページ、5ページの共同提案部分の37項目についても説明はしなくていいですか。

○事務局 失礼いたします。4ページ、5ページに共同提案分の37項目をつけさせていただいております。

こちらにつきましては、全ての構成団体が了としましたものを共同提案したものでございます。

4ページにございます関係府省との調整を行う提案が24項目ございます。このうち重点項目としては7項目ございます。それから予算編成過程での検討を求める提案が4項目ございまして、支障事例等が具体的に示された場合に対象とするものが9項目となっております。

以上でございます。

○**広域連合長（井戸敏三）** 各県のほうでこれについて特に何かコメントがあればお願いしたいと思います。

何か兵庫の提案が結構多いんですけども、公立大学法人が自分で借金できないことになっているんです。ですから全部借金は親団体が又貸しするしかない。ここでこんな変な仕掛けおかしいんだがというのが長期借入金に対する対応です。

あとは、体験民宿業みたいなものについて、旅館業法が余りにも細かく適用され過ぎてますので、これをどうするかです。この旅館業法の問題というのは、なぜそこまで旅館業法で規制しなきゃいけないのかと思われるような規制項目がいっぱいありますから、何か国家戦略特区でも大阪で議論になりましたが、賃貸業と旅館業法との両面適用の問題が非常に物事を複雑にしていますので、この辺、少しきちっとした対応を見直し等をしてもらう必要があるんじゃないかと思っております。

それから、これ、鳥取県さんの病児保育事業に係る国庫補助の職員配置というのはどうということなんですか、これは。わかる。

○**副委員（林昭男）** 看護師の常駐。

○**広域連合長（井戸敏三）** それはなくてもいいじゃないかと。

○**副委員（林昭男）** はい。一応、介護士と保育士を定数の中にカウントして、柔軟に対応できるようにしたんです。

○**広域連合長（井戸敏三）** 今、看護師か保育士を2人とも配置しておかないと助成対象になってなかったはずですね。看護師と保育士それぞれを2名。だからそれを1名でいいじゃないかと、こういう意味なんですね。1名でね。我々、単独で今年1名でいいじゃないかということにしたんです、この点は。

それでは、特にご意見とかご質疑がありましたらよろしく申し上げます。

それでは、今後のスケジュールでご説明しましたように、8月上旬に所管府省からの第1次回答に対する提案団体への意見照会がありますので、その意見を取りまとめ

て提出することになります。委員会で審議はできませんけれども、各メンバーに意見を作成した上でご協議を申し上げますので、どうぞよろしく対応方をお願いしたいと思っております。

他にございませんでしょうか。

それでは、そのような手順で推進を図らせていただきます。

続きまして、4番目、関西圏域の展望研究小委員会の開催結果についてご報告をさせていただきます。

事務局、お願いします。

○事務局 資料4をお開きください。

第3回及び第4回関西圏域の展望研究会の小委員会の開催結果についてご報告させていただきます。

第3回は6月3日、第4回は6月29日に、いずれも関西広域連合本部事務局大会議室で開催されております。

概要ですが、3月の連合委員会や連合協議会の中で、関西圏域の展望研究中間報告について、環境政策、農林政策に関する意見があったことから、第3回及び第4回小委員会の中で、ゲストスピーカーとして内藤正明氏、宮崎猛氏を招聘し、環境政策全般、農林政策全般について議論が行われました。

主な発言といたしましては、環境政策では、資料4の1ページの下から二つ目の段落ですが、これまでの我が国は首都圏に先導された非持続型の物質文明であり、輝ける未来を目指したものであったが、これからは関西圏ならではの自然と共生する新たなモデルを構築し、なつかしき未来を目指すことが一つの選択ではや、資料2ページの一番下の段落ですが、取りまとめとして、環境先進地域をつくる取組が必要ではないかと思う。自然に戻すために規制内特区など、今はそうした制度や仕組みはないのではないか。自然に戻る障壁をなくした自然共生の特区を提案するのがいい。そして地域内で収支のプラスマイナスゼロを目指すことが重要であり、また、環境政策につ

いてイメージをつくり上げるために、海外を含めた先進事例を積み上げて調査することがいいのではないかなどの意見がありました。

農林政策では、資料4ページの下から二つ目の段落になりますが、農場の規模拡大だけでは収益増につながらない。成功している農家は大規模化だけでなく、みずから加工し、自前の直売店舗を持ったり、ネット販売などで顧客を確保し、6次産業化して付加価値をつけているのが共通の特徴。また、観光絡みのレストランや宿泊施設を営むなど、事業分野を拡大し、農産物を増やしている。そして農産物を海外へ拡販するには行政の支援がポイント。それは一つの県市で取り組むよりは、海外の地域を特定して関西が一体となって取り組むのはいいのではないかと、資料5ページの最後の段落ですが、取りまとめとして、食糧政策、魅力的にしなければならない産業としての農業政策、地域政策としての農村政策をどうパッケージングして、関西として新たな提案をしていくのがかなめになるのではないかと。また、高齢者には難しい共同管理活動について、行政がどのように支援を行っていくのが重要ではないかと思うなどの意見がありました。

今後の日程ですが、次回は8月3日に第5回小委員会で、関西圏域の展望研究会の全委員に小委員会への参加を要請して、基本政略案について議論いたします。

その後、8月24日に、最後となります第4回関西圏域の展望研究会を開催し、最終の取りまとめを行う予定としております。

以上でございます。

○広域連合長（井戸敏三） 環境と農業についての議論が行われました。今、ご報告した内容でございますけれども、ご意見やご質疑がありましたらお願いします。

自然に戻すために規制のない特区というイメージがよくわからないんですが、どういうことを言われてるんですか。何も規制がない地区をつくったらいい。

○事務局 この書いている内容でいきますと、人工的な土地利用というのを、例えば3面張りとか、そんなきちっとしたものより、だんだんともう一遍自然に戻すと、

そんな時期もあるんじゃないかなと。例えば土地利用なんかも囲ったきちっとしたものでなくて、自然の形に戻すというような趣旨のことをおっしゃっているように思います。要は、ほっといたらほっといただけで、例えば住宅の垣根があったり、そのままとか、そういうものをもうちょっと自然のような形というふうに解釈してます。そういうふうに読んでます。

○広域連合長（井戸敏三） なかなかこれ、イメージが湧かないね。

農業についても、取りまとめが何を言われているのかがよくわからないから、意見を総合化してどうするかというのは大事でしょうけど。ただ、これ、収入について、ほかの所得なんかを組み合わせるとおっしゃってるんだとすると、これはどうかな。農業を専門化して自立してもらおうというのが、今後の農業政策の基本だと思いますけど、ほかの収入もあて込ませて、ぶち込んで、自立させるという方向は違うんじゃないかという気がします。取りまとめの際にいろんな議論をきちっとしていきたいと思います。

よろしゅうございましょうか。

それでは続きまして、資料5です。関西健康・医療創生会議の設立会合について説明をさせていただきます。お願いします。

○事務局 それでは、資料5をお願いいたします。

関西健康・医療創生会議の設立会合についてでございます。

まず、日時と場所でございますが、来る7月23日木曜日、時間は12時半から1時まで、場所は中之島センタービルを予定しております。

当日、広域連合委員会もございますので、その終了後、また、午後からは関経連との意見交換会がございます。その間の時間という短い時間でございますが、開催をさせていただきます。

出席要請者につきましては、創生会議に参加をいたします関西広域連合の各構成府県市、また、関経連、京阪神の3商工会議所、そして関西の医学部のある大学及び研

究機関を予定しております。

なお、参加意向がございます大学及び研究機関につきましては、お手元に配付しております参考資料のとおり、現在、15の大学等でございますが、まだ機関として公式に表明されているわけではございませんので、本席の机上にだけ配付させていただいております。

当日の内容でございますが、まず1点は、設立趣意書、規約について、2点目が27年度の事業計画について意見交換をすることとしております。設立趣意書及び規約につきましては、事前に関西広域連合と関経連等経済団体で調整決定したものを、当日、出席者に説明いたしたいと思っております。

27年度の事業計画につきましては、既に産学官それぞれから頂戴いたしました提案をもとに、現在、井村顧問と調整をしております。事前を送付できるよう進めさせていただきます。

当日、時間が短いため、発言いただける人数に限られることから、ご意見は事前に書面で提出していただくように進めさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○広域連合長（井戸敏三） せっかく健康と医療についての調整会議をつくるわけですので、成果が得られるような運びにしていきたい、このように考えております。そのような意味でも早く発足をして、そして具体の活動を展開することが重要ですので、かなり日程上、無理をしておりますが、23日に会議としてまず発足させて、今後続けられるような仕掛けにしていきたい、このように考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。具体のご意見等は別途また事前に伺わせていただきますので、よろしくお願いいたします。

広域医療局とイノベーション推進担当のほうでも十分に協議をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは次に、東京オリンピック・パラリンピック等の開催に向けた関西文化の発

信強化に係る公募につきまして、山田委員のほうからお願いをいたします。

○委員（山田啓二） 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、これから関西文化の発信強化を行っていかねばならないのですけれども、こちらのほうにつきましては、はなやか関西・文化戦略会議、佐々木文化庁関西分室長を中心に戦略を取りまとめてきているところではありますが、その中で、この文化プログラムの気運醸成を図って盛り上げていこうじゃないかということで、公募をしたいということでもあります。一つは、「はなやか関西 関西文化の魅力発信企画案・アイデア」の募集で、大体1,000万円ぐらいの事業を考えて、2016年から2020年にこんなことをやったらどうかというアイデアを募集します。これは7月8日から9月30日までが募集期間でありまして、優秀な企画案を選定し、これをブラッシュアップして、できればプロジェクト化を検討していきたいと思っていますところでもあります。

ぜひとも、各府県市の今後の取組事業の参考となるように、幅広く募集をしていければと思います。

もう一つは、「はなやか関西 関西文化の魅力発信シンポジウム」の開催委託でありまして、こちらのほうの企画提案、プロポーザルをしていきたいと思っております。

この事業の関西広域連合の予算は100万円なんですけれども、文化庁と経済界からも少しお金を出していただけるような段取りをこれから重ねて、いいシンポジウムができるようにしていきたいと思っておりますので、こちらも皆さんの応募を待っているところでございます。

とりあえず、私からは以上です。

○広域連合長（井戸敏三） 特に、ご質疑、ご意見ございますか。

いい意見が出てくるかどうかですね、問題は。おもしろいものが出てくればいいんですけどね。関西だからいろいろ出てくるでしょうね。幅広く、吉本から宝塚まで、期待をしましょう。

それでは続きまして、2016年スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの開催につい

て、山田委員からお願いします。

○委員（山田啓二） 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、国の文化プログラムにより動きが出てまいりました。その中で、リオデジャネイロオリンピック終了後の来年10月19日から22日に、スポーツ・文化・ワールド・フォーラムを日本政府が開催いたします。ただ、政府が主催でありますけれども、開催地である京都府、京都市、また経済界を中心にしっかりと支援をしていきたいと思っております、京都では主にオープニング、そして文化関係のフォーラムを行い、その後、東京でメーソンの会議が行われるという形に、今、予定をしているところであります。

これから内容を詰めてまいりますけれども、7月下旬に官民協働の協議会が立ち上げられる予定であり、また、文科省のほうに京都府、京都市から職員を派遣したところがございます、これをいわば関西自身の文化プログラムのキックオフとしてやっていくことによって、関西全体の文化の発信にも役立てていきたいと思っております。

同時に、ダボス会議の若手経済人会議もこの時期に合わせて行われる予定にはなっているんですけれども、こちらのほうはまだ詳細がわからないところであります、ぜひとも関西全体で応援をしていただければありがたいと思っております。

私からは以上です。

○広域連合長（井戸敏三） 特に何かご意見ございますでしょうか。

○副委員（藤田裕之） 京都市も一緒に取り組ませていただきますので、一言補足させていただきます。

このスポーツ・文化・ワールド・フォーラムですが、今、山田知事からありましたように、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた国レベルでのキックオフイベントであるわけですが、京都でも府市協調で経済界も入れまして、京都文化フェアという大きなイベントに取り組もうとしておりまして、そのキックオフイベントとしても位置づけをしております。

会場としましては、京都会館という歴史のあるホールがロームシアター京都という

ことで、大きく今回、来年1月に幕開けして生まれ変わりますので、そのホールをもう押さえておりました、平安神宮のあります岡崎地域一帯を中心に、また、二条城等、京都の魅力を発信できるワークショップ、文化イベントを、国、また京都府、そして経済界と連携して取り組んでいきたいと思っております。

こうした京都での取組、京都ならではの文化・芸術の魅力を世界に発信するということで、文化を関西から発信していくというその取組を進めていきたいと思っている次第でございます。

以上です。

○広域連合長（井戸敏三） 2020年のオリンピック・パラリンピックを目指してのカルチュラル・オリンピアドなんですが、我々、2021年にワールドマスターズゲームズをやるから、このとき文化事業というものをどう位置づけるか、あまり議論したことがなかったので、ワールドマスターズゲームズのときも、ある意味で、引き続き、文化事業を関西で行っていく必要があるんじゃないかと思われまので、これは問題提起だけさせておいていただきたいと思います。

○副委員（藤田裕之） その件については、文科省の山脇国際統括官が、先日、京都にも来られまして、私ども門川市長からも、この2020年のオリンピックとともに、翌年にある関西ワールドマスターズゲームズをしっかりとここにも位置づけていただくようにということもお伝えしてありますし、歩調も合わせていただきたらと思っております。

○広域連合長（井戸敏三） そうですね。何か山田委員、意見ありますか。

○委員（山田啓二） 多分、東京オリンピック・パラリンピックとワールドマスターズは大分趣向が違う、まさにワールドマスターズは参加型の、年齢の高い方が家族も連れてやってきてという話ですから、その点でいくと文化事業なんかもお祭りみたいな形になってやっていくと、非常に来られた方にも喜んでいただけるし、日本文化の発信にもなるので、そうした面もこれから検討を進めていきたいと思っております。

○広域連合長（井戸敏三） 課題として取り組むように、ぜひ広域連合としても皆様と一緒に進められるようにしていきたいと思えます。

それから、ロームシアター京都というんですか、ロームからの命名権じゃなくて整備資金を。

○副委員（藤田裕之） ネーミングライツをいただきまして、50年間で50億円余りの、そういうネーミングライツで。京都会館という名前は結構知れ渡っておりまして、サブタイトル、公式名称は持っているんですけども、対外的にはもう全てロームシアター京都ということで、今、周知をしております。もし京都にお越しになってご存じの方がいましたら、岡崎にあります旧京都会館のことをごさいます。今、全面的なリニューアルをして、1月に小澤征爾先生のもとで、オープニングプログラムを展開する予定をしております。

○広域連合長（井戸敏三） 京都はすごいですね、やっぱり。50年間で50億円、うらやましいね。しかし、それだけまた関西に拠点ができるということですから、大いに注目させていただきたいと思えます。

続きまして、第25回の世界博物館大会の日本開催について、これは山田委員、藤田副委員、どうぞ。

○委員（山田啓二） これはI COMなんですけれども、世界博物館大会の招致について、この前、パリで諮問委員会がありまして、アメリカのシンシナティを破って無事に決まりました。これはまさにオリンピックの前年の秋に開催されるということで、日本文化の発信を世界117国から3,000人ぐらいの方が集まる会議になりますので、じゃあやっついでこうじゃないかということで、文化庁をはじめ、国も挙げての取り組みになりまして、無事、京都市での開催が決まったところをごさいます。

これから大会の詳細などを詰めていくのですけれども、関西の文化プログラムとも連携、協働して、まさに関西の文化を世界に発信していく大会にしていきたいと思っておりますので、ぜひとも関西広域連合の皆さんにおかれましても、いろいろな面で

ご協力をお願いできたらと思っております。

○広域連合長（井戸敏三） 藤田さん、どうぞ。

○副委員（藤田裕之） これにつきましても、京都市も一緒にさせていただきます。

I COMというのは、今も山田知事からお話がありましたように、博物館の世界大会でして、率直なところ、余りなじみがない組織だったんですけれども、3年に1度、世界大会が開催されまして、ちょうど来年がミラノで開催をされるということになっております。いわゆる我々が観光地としてよく知っている美術館、博物館の関係者が一堂に集まるという非常にレベルの高い世界大会が日本に誘致できたと。そして、我々としましては、日本の中でどこで行うのかという前段階の競争のほうは激しかったんですけれども、京都でということに決めていただいております、国立京都国際会館の木下館長のもとで開会等をしまして、あと京都国立博物館をはじめ、京都の博物館が総力を挙げて行うということにしております。

特に京都市には200以上の博物館施設が、京都市内の博物館施設連絡協議会というネットワーク組織をつくっております、これについては全世界的にも例がない京都ならではの組織だという評価もいただきまして、誘致が決まった背景にあるんじゃないかなと思っております。各府県市でも博物館施設、すばらしい施設を持っておられると思いますので、ぜひこのI COM2019に向けてご支援といいますか、呼びかけしていただければ、協力もいただければありがたいと思っております。

○広域連合長（井戸敏三） これ、海外から2000人というと国内が500人。そうすると、例えば博物館なんかで手を挙げてもなかなか参加できないということになりますね。京都だけで200。

○委員（山田啓二） 京都国際会館のキャパもあるのでありますが、できるだけ大勢の人が参加できるようなプログラムを沢山つくってやっていくことになろうかと思っております。何せまだ誘致が決まった段階で、これから多分実行委員会をつくって、みんな

なで力を合わせてやっていくことになりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○副委員（藤田裕之） かなり急速に気合が入って盛り上がっておりますので、この2500という人数も遠慮した数字だと後から言えるように盛り上げていただきたいなど。我々も盛り上げていきたいなど。今、井戸連合長がおっしゃったように、国内からも沢山参加していただけるように、また、京都も博物館だけで200あるわけですので、そこらあたりは内部的な参加者というのはもっと増やしていきたいなど思っております。関西広域連合からもぜひお願ひしたいなど思っております。

○広域連合長（井戸敏三） それでこの博物館というのは、博物館といってもいろんなジャンルがありますよね。メインは、例えば美術とか決まってるんでしょうか。

○副委員（藤田裕之） 京都の場合は、メインになりますのは京都国立博物館になりまして、あと公立の博物館で京都市美術館、それから京都国立近代美術館、京都文化博物館という四つがミュージアムズ・フォーと大手の博物館で言ってるんですが、それ以外にも、今の琳派400年の中心になっている細見美術館という民間の博物館とか、それから大学の博物館、お寺の宝物館、このあたりが全部ネットワークを組んで、博物館連絡協議会というものをつくっているという京都ならではの特性があります。

今、おっしゃった博物館、美術館も全部含めてのこの協会の大会ということになりますので、世界的にはルーブルとかエルミタージュとか、そういういわゆる美術館として知られているところも来られると聞いております。

○広域連合長（井戸敏三） 何か運営の工夫なんでしょうけど、美術館といわゆる科学博物館とか、少しジャンルごとに対応が違うんじゃないかという感じがしないわけじゃありませんが、この辺は十分これからご議論されることだろうと思ひます。大いに期待をしたいと思ひますし、我々もできるだけ参加をさせていただければと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それから次、ニホンジカの広域的な鳥獣対策の推進につきまして、三日月委員のほうから提案がございます。よろしくお願ひします。

○委員（三日月大造） 　少し話題が変わってニホンジカ対策でございます。環境省の調査結果では、関西全域での生息数は24年度末の推計ですが42万頭、そして平成35年には56万頭になるということを見越して、半減となる19万頭になるように捕獲していこうということでやっているんですが、現行、9万頭にとどまっているということから、関西広域連合で広域的なニホンジカ対策に取り組むことといたしました。昨年度は、重点地域の選定および捕獲にかかわる専門技術者養成のためのプログラムを作成いたしました。

今年度は二つのことを行います。一つは、この重点地域からモデル地域を選定して取組を行い、その募集を7月からさせていただきたいと思います。もう一つは、猟友会等もかなり高齢化が進んでおりますので、このニホンジカの捕獲事業を監理監督できる人材を育成する人材育成のプログラムを実施します。受講対象者は40名程度、実施期間は9月から3月の間で5回行います。その募集期間を8月中旬から9月中旬とさせていただきたいということでございます。

それに関連いたしまして、今、お手元にお配りしましたのが、C o C o 壺番屋の「淡海の国・滋賀 鹿肉の煮込みカレー」です。これは、株式会社アドバンスが鹿肉を加工した煮込みカレーをレトルトで販売開始されたものです。既に県内12の店舗で、鹿肉カツカレーや鹿肉竜田揚げカレーなどを販売していただいているのですが、こういった取組を進めることで、捕獲した後の流通も視野に入れ、さらに捕獲を促進してまいりたいと考えておりますので、今後の検討の一助にいただければと存じます。

以上、簡単ですけど説明をさせていただきます。

○広域連合長（井戸敏三） 　ご意見なり、ご質疑ございましたらお願いいたします。

この研修プログラムですけれども、私どもの森林動物研究センターとはタイアップしていただいているのでしょうか。

○委員（三日月大造） 　当然タイアップをさせていただいておりますし、これからよりタイアップさせていただきたいと思います。

先ほど申し上げました関西全域で9万頭のうち、4万頭を兵庫県でとっていただいてまして、非常に精力的に兵庫県は取組をしていただいておりますので。

○広域連合長（井戸敏三） 鳥取県さんから怒られてますから、越境してきてると。

○委員（三日月大造） 特に県境域、府県境域の山岳地帯が非常に問題になっているものですから、この広域連合のネットワークを生かそうという取組でございます。

○広域連合長（井戸敏三） それとモデル地区に奈良が入ってないので、ぜひ奈良を入れておいていただきたいんです。

○委員（三日月大造） 広域連合加入が無事整えば。

○広域連合長（井戸敏三） もう今から入れておいていただければありがたいなど。

○委員（三日月大造） 部分加入ですけど、それはよろしゅうございますか。

○広域連合長（井戸敏三） いや、構わないです。それを言っちゃうと、鳥取県さん。

○委員（三日月大造） 失礼いたしました。そういう県境域、鹿は関係ありませんので、少し奈良県の県境域も検討させていただきます。

○広域連合長（井戸敏三） 検討をぜひいただいたらと思います。

他に何かございますか。

それでは、次に移らせていただきます。

最後になりますけれども、ミラノ国際博覧会におけるPRにつきまして、本部のほうから状況をご説明させていただきます。

○事務局 資料の10でございます。

ミラノ博覧会とか、海外での国際博覧会関係が開催されるに当たって、関西のPRをどんどんしていこうということで、これまでの連合委員会の中でも委員さんのほうからご発言をいただきまして、各府県市の協力を得て、今現在、取り組んでいるところでございます。

内容については、ご覧の資料の表のとおりでございます。既に京都府、京都市さん

におかれましては、6月7日から6月11日、ミラノ国際博覧会で事業を行っていただいたということで、延べ約5,500人の来場者がある中で、DVDの上映やチラシの配布等々をいただいたところでございます。

今現在、鳥取県、京都市さんでパリのジャパンエキスポ、あるいは和歌山県さんでも、あすからミラノ国際博覧会、それ以降、兵庫県さん、滋賀県さんは湖南省との友好との連携事業でございますけれども、あと徳島、大阪市さんでミラノ博覧会での出展ということもございますので、今後とも、積極的にPRのほうをよろしくお願いたいということでございます。

以上でございます。

○広域連合長（井戸敏三） 何かこれに関連してご意見等ございましたらお願いいたします。

京都ウィーク事業いかがだったんでしょうか。山田知事、行かれたんですか。

○委員（山田啓二） はい、行きました。日本館はものすごく人気がありまして、人気ナンバー1ぐらいに上げられているところなので、入場者数も大変多いと聞いています。

日本館に舞台がありまして、そこでオール京都で日本酒や京料理などをアピールしました。これから夏休みに入り、盛り上がってくると思いますので、食を中心としてやっていくということで、京都から料理人にも来てもらいまして、レセプションもやりました。3つ星シェフたちの料理でミラノの皆さんにも和食のよさを味わっていただき、大分アピールできたと思います。また、行ってわかったのは、食材の輸入規制が厳しいことです。これは一つの教訓として、考えていかなければならないと思います。

○広域連合長（井戸敏三） EUは物すごい非関税障壁が高いところなんです。生鮮食料品はほとんど基本的にだめというのがEUですから、その辺は今回の経験を生かして、どう攻めていくかというようなことも検討する必要があるのではないかと思います。

います。

我々も困ってるんです。だしがとれない。お吸い物などのだしがとれないというので、非常に困っているんです、和食料理をする時に。どうすることにしたんだっけな。何か代替品を使わざるを得ないんです。

和歌山は、今、行かれていますか。

○副委員（下 宏） 今日から行っている。

○広域連合長（井戸敏三） 知事も行かれていますか。そうなんですか。

和歌山の後、ジャパンウィークがあって、ジャパンウィークの後、兵庫ウィークなんです。ですから7月は少し一つの盛り上がりになってます。

○副委員（林 昭男） 鳥取の知事も一緒に行かれて。

○広域連合長（井戸敏三） 鳥取の知事も。

○副委員（林 昭男） パリのジャパンエキスポに行きまして、その後、和歌山県さんと合流させていただいて、ミラノの。

○広域連合長（井戸敏三） そういうことですか。

○委員（山田啓二） ジャパンウィークは私も行きます。

○委員（山田啓二） ジャパンウィークでジャパンサローネという日本の文化伝統の紹介事業に京都府が関わっているものですから、10日から、もう一度行ってまいります。

○広域連合長（井戸敏三） いずれにしても、これだけ多くの国際事業にそれぞれが参加されていますので、関西もあわせて売り込むようによろしくお願い申し上げたいと思います。

私も7月12日から20日まで、このミラノ国際博覧会へ兼ねて渡欧することにしております。

○委員（山田啓二） 各地を回ってこられますか。

○広域連合長（井戸敏三） フランスとイタリアを。フランスに友好提携県が四つ

あるんです。そのうちの三つを回ってこようということにしています。

それでは、関西を売り込むためのPRにそれぞれ努力をしていただきますことをお願いしておきたいと思います。

おかげさまで、珍しく時間内に終わることができました。ご協力にお礼を申し上げたいと思います。

他に何か連絡事項ございますか。事務局、ありますか。ない。

特にないようですので、第58回関西広域連合委員会、以上で閉会とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

午後から議会がありますので、どうぞよろしく願いいたします。

閉会 午前11時59分